

日本における **Fit For Work Service** の必要性 ～生涯現役社会を目指して～

働くことを支援する新しい保健プロジェクト **Fit For Work**

産業医科大学 医学部 公衆衛生学教室 松田晋哉

キーワード：

Fit for Work、就労支援、社会保障

我が国の社会保障制度は実質的に世代間の所得移転が基本となっている。急速な少子高齢化は労働人口の減少と給付を受ける人口の増加を意味し、したがってシステムの抜本的な見直しが必要となっている。この問題に対処するためには、エージレス社会を実現することが求められる。高齢者が労働を続ける条件としては、働くことを可能とする健康レベルであることがあり、そして働くことが健康維持にも有効であることがこれまでの研究でも明らかになっている。

他方で、限られた労働人口で社会の活力を維持するためには、個々の労働者の生産性を高めることも必要である。これには個々人の勤労能力を高める生涯学習が求められるが、加えて生産性を阻害する健康問題に対処することも必要である。これまでの諸外国の研究によると、健康による労働生産性の損失に関しては、**Absenteeism**（病気による欠勤や休業）よりも **Presenteeism**（出勤している労働者の健康問題による労働遂行能力の低下）の影響の方が大きいことが明らかとなっている（前者が 30%、後者が 70%）。

Presenteeism にかかわる疾患としては、筋骨格系疾患やアレルギー性鼻炎、神経症、彼に伴って生じる感覚器障害など生命への直接的な危険性はないが、労働能力に影響を及ぼす疾患が重要であるとされている。また、近年の化学療法等の進歩により、がんも慢性疾患化し、担癌患者の就業支援も重要な課題となっている。こうした健康問題を持つ労働者が働くことを医学的に支援しようとするものが **Fit For Work (FFW)** である。

FFW は英国ランカスター大学のシンクタンクである” **The Work foundation**” が中心となり、欧州全体で行われている復職支援に関する取り組みである。また、” **Fit for Work Service**” は英国政府が実施している **Pilot Study** で、特に中小企業で働く労働者に対し病欠の早期の段階での支援を行うことを目的として、社会的問題や医学的問題に対しパーソナライズされた支援を多くの分野の専門家が提供する新たな産業保健サービス提供方式である。

こうしたシステムを我が国の地域産業保健の仕組みの中に取り込むことが、活力ある高齢社会を構築するために不可欠であり、また本学会として取り組むべき重要課題であると考えられる。